

オープン市場短信 (2015年10月)

2015.10.8

◆ 9月のCP市場動向

9月のCP（短期社債）月末残高は、14兆7310億円と、14か月連続前年同月比増となった。しかし、9月は有利負債圧縮目的による期末要因のため、一般事業法人で大幅な残高調整が行われたことから、前月比では1兆2706億円の減少となった。一般事法で1兆6756億円の大幅減少となり、その他金融も3040億円の減少となった。一方、金融機関では5707億円、ABC Pで2013億円の増加となった。

発行レートの動きについては、最上位格付け銘柄では0.06%台半ば～0.07%台半ば、a-1格の一般事業法人では0.07%台前半から0.10%台前半での出合いが中心となった。投資家やディーラーの購入ニーズが強く、月中旬以降低下地合いが続く動きとなった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.078%。一般事業法人（a-1格）0.0870%～0.1070%。

その他金融銘柄（a-1格）0.0868%～0.145%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	9月末残高	8月末残高	増 減
一般事法	27,645	44,401	-16,756
その他金融	60,856	63,896	-3,040
金融機関	42,521	36,814	5,707
政府系金融	1,600	1,400	200
銀行等	15,950	13,560	2,390
証券	24,971	21,854	3,117
ABC P	16,288	14,275	2,013
計	147,310	159,386	-12,076

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

9月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0710% ~ 0.0800%	0.7480% ~ —	— ~ —
a-1 (一般事法)	0.0700% ~ 0.0899%	0.0710% ~ 0.0980%	0.0730% ~ 0.1018%
a-1+(リース銘柄)	0.0705% ~ 0.0718%	0.0720% ~ —	0.0660% ~ 0.0750%
a-1 (リース銘柄)	0.0900% ~ 0.1000%	0.1050% ~ —	0.0710% ~ 0.1440%
a-2	0.0900% ~ ケ0.25%	0.0970% ~ ケ0.25%	0.0990% ~ ケ0.25%

《CPオペ》

CP買入オペは、3日・14日が各々5000億円、25日が5500億円に増額されて実施された。9月中の発行が少なかったことや応札可能銘柄が限られたこともあって、応札額は回を追うごとに低下する動きとなった。按分レートや平均落札レートも低下の動きとなり、25日のオペは今年3月のオペの按分レート0.032%を下回る0.013%という結果となった。

【月末オペ残高：1兆9977億円】

日銀CP等買入れオペ実績

(単位: 億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
9月3日	9月8日	5,000	8,556	4,985	0.079%	0.085%	64.6%
9月14日	9月17日	5,000	8,124	4,991	0.058%	0.075%	78.6%
9月25日	9月30日	5,500	6,990	5,496	0.013%	0.051%	12.5%

《ABCP》

ABCPの月末残は、期末要因もあって、前月比2013億円増の1兆6288億円。前年同月比では、161億円の増加であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、9月末時点における発行登録企業数は中国農業銀行とJALUXが新規登録を行ったが、デブファ銀行・セディナが登録を取り消したため、511社のままであった。通算の発行企業数は、554社であった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、9月中もレポレートの低下の影響もあって月末にかけて低下地合いとなり、0.06%台半ばから0.09%近辺での出会いとなった。

◆ 10月のCP市場動向

10月のCP償還額は約2兆1900億円で、前年同月の償還額（約2兆1600億円）とほぼ同額となっている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、一般事法では有利子負債圧縮目的で残高調整を行った企業の復活発行が見込まれる。鉄鋼や卸売業等は、月初から積極的に復活発行を進めている。それ以外の業種ではややその動きが鈍いのだが、中旬以降発行が活発化すると思われる。

発行レートについては、新規発行増とはなるものの発行のペースがやや鈍いことと投資家の運用ニーズが強いこともあり、ほぼ横這い推移が予想される。但し、発行量の多い銘柄での年内物では、やや上昇地合いでの動きとなるだろう。3M物の最上位銘柄は、0.06%台後半から0.08%近辺での出合いを予想する。同様に、一般銘柄では0.08%台前半～0.09%台半ばで、発行量の多い銘柄では0.08%台後半から0.09%台半ばでの出合いを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.08%台半ば～0.13%台半ばを予想する。

2日に、日銀短観「CPの発行環境（発行企業ベース）」の公表があった。それによると、DI（“楽である” - “厳しい”）が前回（6月）調査より、大企業の大企業ではプラス1%ポイント、製造業では変わらず、非製造業でプラス3%ポイントとなった。

《CPオペ》

今月は、6日・19日・27日と、計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて予定されている（9月は初回と中旬の2回のオペが5000億円、月末スタート分が5500億円）。6日のオペは、応札が8700億円弱とディーラーの売却ニーズも相応にあったが、9月期末に発行レートや現先レートが低下していた影響もあって、ディーラーの応札レートの目線はオファー額を勘案するとやや低目の水準となった（按分レート：0.064%）。19日・27日のオペでは応札可能銘柄にもよるが、新規発行増が見込まれることから、レートはやや上昇地合いを予想する。

《CP現先市場》

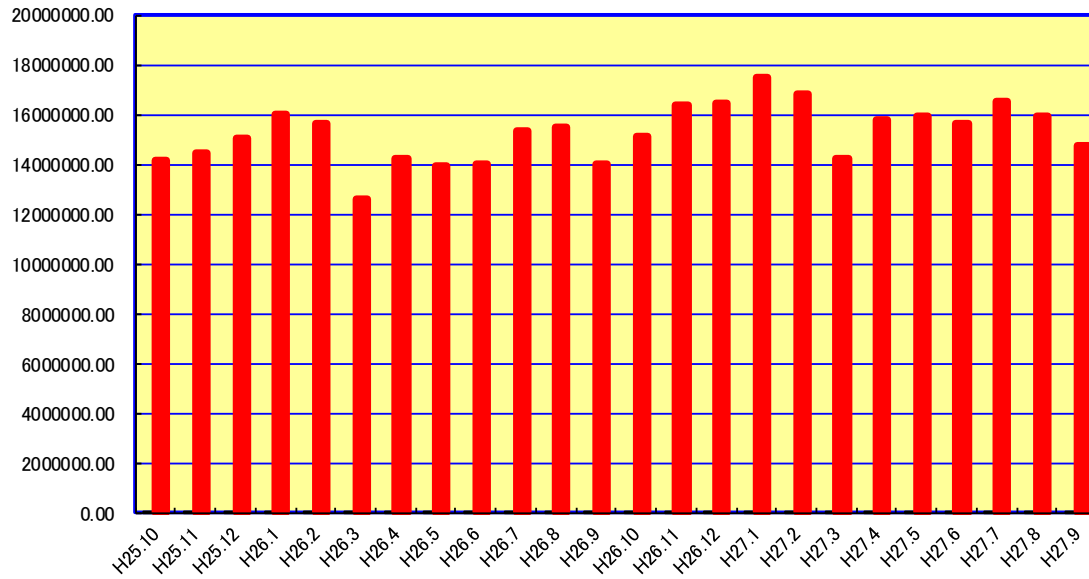
S/N物のレポレートは、引き続き0.03%～0.08%前後でのワイドレンジでの出合いが予想される。インターバンクレートは、0.075%～0.08%での出合いが予想される。CP現先レートは、0.06%台～0.08%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（H25年10月～H27年9月）

発行登録企業：511社（発行実績あり554社）

（過去2年間の残高を表示）



9 月末発行残高ベスト 20

9月末発行残高上位20社

(単位: 百万円)

	発行企業名	9月末残高	8月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	816,900	822,200
2	三菱UFJリース	796,600	817,600
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	768,300	773,300
4	SMBC日興証券	698,600	425,200
5	東京センチュリーリース	627,000	623,000
6	三井住友信託銀行	549,400	266,400
7	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	520,920	485,910
8	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
9	JXホールディングス	452,000	404,000
10	みずほ証券	417,100	371,900
11	大和証券	406,950	471,930
12	芙蓉総合リース	350,200	348,700
13	JA三井リース	342,000	342,000
14	興銀リース	327,500	339,500
15	日本証券金融	326,000	392,000
16	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	313,480	217,270
17	ジャックス	237,000	235,500
18	NTTファイナンス	245,000	200,000
19	ホンダファイナンス	223,000	236,000
20	スタンダードチャータード銀行	232,500	262,500

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会